

小単元名「万の位」

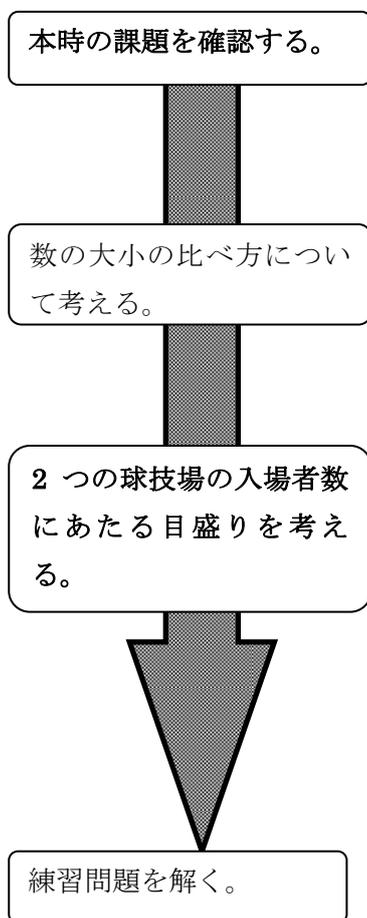
■ 目標

- ・ 万の位までの数について大小比較ができるとともに、数直線上に表したり数直線上の数をよんだりすることができる。

■ コンピュータを活用する利点

数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりするときに、電子黒板を利用することで、数直線の大小の目盛りがいくらになっているか（数が何とびになっているか）を明確にし、正確によんだり、視覚的に位取りを理解したりできる。

■ 授業の流れ



■ ICT 活用場面

授業のはじめに学習の動機づけとして2つの球場の写真を見せて、それぞれの球場の入場者数をよませた。

次に、2つの球技場の入場者数を視覚的にとらえ、その大小を比較させるために、電子黒板上に拡大した数直線を表示した。さらに大きい目盛り（1000の目盛り）を取り出し、拡大して見せることで、一目盛りが100になることを視覚的にもとらえやすくし、児童が自分の言葉で目盛りのよみかたを説明することができるように配慮した。また、拡大した数直線上に入場者数をあらわすことで、拡大していない数直線上に児童が数を正確に表記できる手立てとした。



次に、2つの球技場の入場者数を視覚的にとらえ、その大小を比較させるために、電子黒板上に拡大した数直線を表示した。さらに大きい目盛り（1000の目盛り）を取り出し、拡大して見せることで、一目盛りが100になることを視覚的にもとらえやすくし、児童が自分の言葉で目盛りのよみかたを説明することができるように配慮した。また、拡大した数直線上に入場者数をあらわすことで、拡大していない数直線上に児童が数を正確に表記できる手立てとした。

■ 成果と課題

数直線を拡大表示したことで、一目盛りがいくらになるかが分かりやすく、数直線上に入場者数にあたる目盛りの記入をスムーズにおこなうことができた。また、数直線上に示された大きな数も正確によめた児童が多かった。数直線を用いた学習を苦手とする児童は多いが、目盛りを拡大表示することで数をよみとったり表したりしやすくなり、苦手意識の軽減も図れ、大きな数をイメージでとらえさせることが容易になると感じた。今後は、正確に読んだり表したりする力を定着させるため、練習問題コンテンツを取り入れることが望ましいと感じた。

■ ICT 活用環境等

使用周辺機器	デスクトップパソコン1台、プロジェクタ 電子黒板
使用ソフト名	デンカケ2（教科書ソフト） MS-Power Point
使用教室	普通教室